

# 2022 ANNUAL REPORT



認定NPO法人CLACK / 2022年度 年次報告書

# <ABOUT US>

私たちに  
ついて

## VISION

生まれ育った環境に関係なく、  
子どもが将来に希望とワクワクを持てる社会

## MISSION

日本中の困難を抱える高校生に  
プログラミングによる  
自走支援を届ける



# <ISSUES>



解決したい  
問題

## 「貧困の連鎖」を断ち切りたい。



日本の子どものうち、  
7人に1人が相対的貧困\*にあるという  
調査報告があります。

経済的困窮は、自己肯定感が十分に育まねず、不登校やひきこもり等に繋がると言われています。  
また、親の年収の差は子どもの学歴や将来の雇用形態にも影響を与え、大人になったときの年収にも格差が生まれてしまいます。  
この状態は「貧困の連鎖」と呼ばれ、社会の関心は高まっていますが、簡単に解消できる問題ではありません。

小中学生への食事支援、学習支援、居場所支援などは少しずつ増加傾向にあります。しかし、義務教育を終えた高校生はその支援から漏れてしまうという現状があります。また、将来的に経済的・精神的に自立して生きていくための「自走力」をつける支援も不足しています。

\*相対的貧困は「年間の手取りの中央値の半分以下で暮らしている状態」と定義され、親子2人世帯(ひとり親世帯)の場合、1ヶ月約14万円で暮らしている状態です。

親の年収と大学進学率



学歴と非正規雇用率



雇用形態による年収の格差



CLACKは、プログラミング学習支援とキャリア支援を通じて、  
困難な状況にある子どもが未来を切り拓く力を育む機会を提供するとともに、  
貧困連鎖の解消のための仕組みづくりに取り組み、子どもが希望とワクワクを持てる社会を実現します。

## OUR APPROACH

わたしたちは、3つの段階的なアプローチで、子どもが貧困の連鎖を脱するための社会インフラを整え、1人でも多くの高校生に困難を乗り越える力を提供します。

### APPROACH 01

困難な状況にある  
中高生に伴走する

→ 5P

困難な状況にある子どもへ、プログラミング学習支援とキャリア教育を完全無料で届け、「自走」を支援

### APPROACH 02

仕組みを  
日本中に広げる

→ 13P

プログラムの質の向上に取り組むとともに、各地域の団体や機関と連携し、全国の子どもへ自走支援を展開

### APPROACH 03

制度に組み込む

→ 14P

自走支援モデルとその展開を元に、プログラミングによる自走支援の補助金制度化などを提言

### 理事長・平井より

本年度もCLACKをご支援いただき誠にありがとうございます。  
思えば、学生時代にシェアオフィスの1区画を無料で間借りさせてもらい、活動を始めたCLACKも、法人設立から4年、任意団体設立から約5年が経ちました。  
年次報告書の作成にあたり、プログラムの修了生や支援者の方々にお話をお伺いし、多くの方々の支えがあってここまで来れたのだと改めて感じています。皆さまの支援の行き先である高校生や事業の変化について、感謝の気持ちを込めて、本紙面を通じてご報告いたします。  
私たちのことをよく知っている方も、初めて知る方にとっても、CLACKのいまと描く未来について知ることができる内容だと思っています。ぜひ最後までお目通しください。

CLACK理事長 平井大輝



# <TOPICS>

## 2022年度の 6つのトピック

### 01 「認定NPO法人」になりました！



2023年2月、大阪市より「認定特定非営利活動法人」として認定されました！

学生時代の設立から手探りのなかでも4年目で認定をいただいたのは、寄付者の皆さん、税理士の森さん、弁護士の三村雅一さんをはじめとする沢山の支えのおかげです。本当にありがとうございます。公益性が認められたことに一層気を引き締め、より多くの子どもへ届けられるよう尽力します。また、寄付金控除の対象にもなりましたので、ともに「生まれ育った環境に関係なく、子どもが希望とワクワクを持って社会」を目指す支援の輪を広げていきたいです！

### 02 東京拠点がついにスタート！



大阪の新大阪と堺で実施してきたTech Runwayを、9月に東京の五反田でもスタートしました。

商業高校や工業高校を1校1校回り、NPOのカタリバさんやキッズドアさん、あしなが育英会さんにもご協力いただきながら、高校生への周知を行いました。無事、高校生もメンターとなる大学生や社会人エンジニアも集まり、2期目の開始に合わせてスタートしたTech Runway+を含め、この1年で32名へプログラムを届けることができました。今後、この仕組みを日本全国に広げていくための第一歩となった1年でした！

詳しく → 9P

### 03 山野研究室と共同研究をはじめました！



私たちの事業が高校生や社会にどのような変化や影響を与えるかを可視化するため「社会的インパクト評価」を大阪公立大学 山野則子研究室と協働で実施しはじめました。

山野教授は、スクールソーシャルワークのプログラム評価に基づく研究や子どもの貧困研究を専門としています。これまででもCLACKのプログラムを通じた高校生の変化は、アンケートを中心に測定をしていましたが、これらの評価をより客観的で信頼性のあるものにし、事業の改善や見直し、仕組みづくりに活かすことを目指します。

詳しく → 9P

### 04 新規事業「チリツモ」を開始しました！



不登校の中学生・高校生を対象にしたプログラミング専門のオンライン個別指導「チリツモ」を開始しました。

Tech Runwayは、対面形式・複数人が教室にいるなかで支援を行っています。一方で、学びたくても様々な側面で教室まで来ることや大人数がいる場にいることが難しい子どもへ支援を届けられない課題がありました。中高生本人や保護者の方々からの要望をいただき、1対1でオンラインでプログラミング学習を支援する「チリツモ」の開始に至りました。これまでの支援のノウハウを活かしながら、日々、プログラムの改善を重ねています。

詳しく → 12P

### 05 スミセイ未来賞・岩佐賞を受賞しました！



住友生命が実施する「未来を強くする子育てプロジェクト」の子育て支援部門のスミセイ未来賞、そして岩佐教育文化財団「SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞 教育の部」を受賞しました！

これらの受賞は、CLACKのこれまでの活動が認められると同時に、今後さらに子どもたちへ「自走支援」を届けることを期待していただいたと認識しています。受賞やメディア掲載などが、よりたくさんの方に子どもを取り巻く現状やCLACKのチャレンジを知っていただく機会になってほしいです。

詳しく → 22P

### 06 新公益連盟 代表理事 白井智子氏が理事に就任しました！



2022年9月1日より新公益連盟 代表理事の白井智子氏を理事にお迎えいたしました。

白井智子氏は、日本で初めての公設民営型フリースクールの設立、新公益連盟の代表など、民間と行政の連携について豊富な経験をお持ちです。理事へのご着任を通じて、多数のセクターを巻き込みながら大きな潮流を作り、立場の壁を越えたより大きなインパクトを生んでいきたいです。15ページでは、白井氏と代表の平井の対談記事を用意しました。ぜひご一読ください！

詳しく → 15P

# 困難な高校生の“自走”を支援する CLACK Kの自走支援モデル

CLACKの自走支援モデルでは、「出会う」「学ぶ」「実践する」「選択する」の4ステップで、高校生が自立するために必要なスキル・知識を育み、将来の展望を広げます。



## 困難を抱える高校生支援の3つの難しさ

**01 出会う難しさ**

- 義務教育が終わり、行政としてもつながりが途切れてしまう
- 学習経験の不足から、高校生自身に自分で情報を見つける能力が育まれていない

**02 行動を促す難しさ**

- 学校と家の行き来の生活から一歩踏み出すまでのハードルが高い
- 客観的に自分を見つめる経験の不足から、現状を変えるために行動起こす必要性を感じにくい

**03 継続の難しさ**

- 自己肯定感の低さややりきる経験の少なさから、小さなことで挫折してしまう
- 何かをやると決めたととしても、アルバイトや友人からの誘いを優先してしまい、継続できない

**Step1 出会う**  
ITを身近に感じてもらい、プログラミング学習へのハードルを下げる

**Step2 学ぶ**  
進路の選択肢を広げ、精神的・経済的な自立につなげる

**Step3 実践する**  
継続的に自ら学ぶ力と、今後のキャリアを見据えた基礎能力を身につける

**Step4 選択する**

- 就職
  - 進学
  - インターン
  - アルバイト
- 学び、実践したことを生かし、自立につなげていく

▶ **体験会** 事業報告▶ 7P

- ドローンやロボットなどの最新技術を体験
  - “楽しい”を入口に“学んでみよう”
- # 好奇心 # 最新技術 # きっかけ

▶ **放課後カフェ** 事業報告▶ 7P

- 高校の空き教室で放課後に実施
  - 生徒が安心して自由に交流できる場
- # 安心 # 居場所 # 予防的支援

▶ **Tech Runway** 事業報告▶ 8P

- 3ヶ月間のプログラミング教室
- webサイト/サービス制作のプログラミング技術
  - メンターのサポートによる精神面の成長
  - 学びのワーク（情報の集め方、将来、お金、生活）
  - 大手IT企業との交流を通じたキャリア支援
- # 対面で寄り添う # 選択肢の拡張 # 自己効力感

▶ **チリツモ** 事業報告▶ 12P

- 不登校の中高生向け  
プログラミング専門オンライン家庭教師
- 一人一人に寄り添った個別指導
  - 子どもと保護者の双方に対するカウンセリング
- # オンライン # 全国どこでも # 保護者もサポート

▶ **Tech Runway+** 事業報告▶ 11P

- ITエンジニアや情報系進学を目指す実践的プログラミング教室
- 修了生が3ヶ月間でより専門的な内容を学ぶ場
  - 今後のキャリアを見据えながら継続的に学ぶ力
  - 企業と連携し、高校生が実際にITを使って有償インターンができる
- # 自分で目標設定 # 継続学習を支援

▶ **Be Pro** 事業報告▶ 12P

- プレ就労支援プログラム
- 専門的なスキル習得によってテクノロジー人材の輩出を目指す
  - 資格取得が可能
- # 専門スキルの獲得 # 企業連携

### 体験会



#### 事業概要

高校生がITに触れ、関心を持ち、挑戦したいと思えるきっかけの場として、VRやドローン・ロボットプログラミングや、webサイトの制作を行う体験会を開催しています。パソコンに触れる機会がなかったり、初めての空間でコミュニケーションをとるのが苦手だったり、様々な高校生が参加しています。どんな高校生でもITを純粋に楽しめるよう、体験会では、2-3名の高校生に対して、大学生メンター1名がサポートにつき支援しています。

#### 今年度の活動

##### Webサイト制作体験のコンテンツを開発

VRとドローンプログラミングに加え、2022年度から新たにWebサイト制作体験のコンテンツを開発しました。まずITに触れることを重視しコードを書く体験を設けておらず、Tech Runwayの内容との間にギャップがあったためです。

##### 学校での「出張体験会」を実施

3都府県6高校と連携し、約60人の高校生に体験会を届けました。学校に直接出向くことで、課外活動への参加にハードルのある高校生にもプログラミングに触れる機会を届けることが出来ました。

#### 参加者

##### 体験会

大阪 297名 東京 68名 オンライン 99名

##### 出張体験会

大阪 今宮工科 19名 | 東淀工業 4名 | 中央高校 30名  
東京 六郷工科 10名

#### 2022年度満足度調査 ※5段階評価で回答



### 放課後カフェ



#### 事業概要

安心して自分らしく過ごせる場所を学校内に作ることを目的に、大阪府立東淀工業高校内で月2回程度、放課後カフェを運営しています。お菓子やジュースの提供に加えて、VRやドローンなど最新テクノロジーに触れる機会も設け、ちょっとした悩みや他愛もない話ができる関係性に加えて、高校生の関心を広げるサポートをしています。

#### 実施回数

全 22 回

#### 参加人数(延べ)

973 名

#### 今年度の活動

居場所としての認知拡大や、高校生にとってより居心地のよい空間づくりを目指して

##### SSWや教員と連携したイベントを実施

##### 高校生の自主企画を実施

ゲーム大会やお茶会などが高校生によって行われ、引き続き、企画や運営にも携わってくれています。また、幅広い支援の提供を目指し、ITに興味をもった高校生へTech Runwayの体験会を案内するなど、興味を持ったことをより深く学ぶ後押しをしています。



### Tech Runway

目に見えづらい相対的貧困によって、塾や部活動、旅行や文化体験といった教育資源を享受できないことで、子どもは学力向上や成功体験を通じて自己肯定感・自己効力感を育む機会を喪失してしまいます。CLACKは、中長期的な需要があり、専門性を身につければ職につながりやすいこと、学習の過程で「私にもできる!」という本人の自信や成功体験を身につけられることから「プログラミングスキル」を起点に子どもの“自走”支援を行っています。



#### CLACKが注目する3つの不足

##### 01 経験

学習の基盤となる知的好奇心や学習への姿勢などは幼少期の活動の中で育まれます。経済的な困窮は様々な経験の妨げにもなり、経験の不足が生まれます。

##### 02 つながり

周囲には親と同じ社会階層の大人が多く、学ぶことや働くことのイメージが偏ってしまっています。また、困ったときに助けてくれる大人やロールモデルとなる大人も少ない傾向にあります。

##### 03 考え方

親の関わり方によっては、長期的な視点で計画を立てる力が養われなかったり、周囲と円滑にコミュニケーションをとることが必要だと考えないようになりがちです。消費的思考になることが多く、さらに困難から脱しにくい状況が生まれます。

プログラミング学習支援とキャリア支援を行うことで  
進路の選択肢を広げ、経済的自立と精神的自立につなげていく

#### プログラミング学習支援

プログラミングを3ヶ月間で学び、自分でWebサイトを作れるようになるまで講師が寄り添ってサポート



#### キャリア支援

今後の生活に必要なお金、進路、働き方などについてワークショップや交流会を月に2回程度開催



#### 事業概要

Tech Runwayでは、週2回3時間・3ヶ月間の期間の中で、自分でwebサイトやサービスを作れる状態を目指します。授業以外でパソコンに触れる機会が無く、タイピングやPC操作もままならない高校生もいます。学習の継続が難しいとされるプログラミングですが、CLACKでは大学生メンターや社会人エンジニアが高校生に寄り添い、学習を支援します。

困難な状況にある子どもは、自身の興味関心を育む学校外での“経験”や、社会的な“つながり”、計画性や他者との協調や協働の必要性などの“考え方”が不足する傾向にあります。



そのため、プログラミング学習だけでなく、キャリア支援として、お金や進路選択、働き方などに関するワークショップも隔週で開催しています。

3ヶ月間のプログラムの締めくくりとなるのは、自分で作ったサイトやアプリを教室でプレゼンする最終発表会です。自分でつくりたいものを考え、アウトプットする過程では、スキルの獲得だけでなく、高校生の自主性や創造性、問題解決能力が育まれています。



#### Tech Runwayで得られるもの

##### プログラミング・IT知識

これからの社会で必要になるプログラミングスキル、IT知識やPCの基本的な操作を身につける

##### 自己肯定感

大学生、社会人といった様々な人に支えられながら学ぶ経験を通じて、自己肯定感を育む

##### 学習意欲

プログラム学習支援とキャリア支援を通して、新しいことを面白がる力や振り返り学ぶ力を磨く

##### 問題解決能力

プログラミング学習支援の中で、問題を見つけ、解決するための思考方法や情報の集め方・使い方を身につける

#### Tech Runwayの特徴

##### 01 完全無料

経済的な理由で学びを諦めることのないよう、完全無料で実施します

授業料・教材費無料 | PCの無料支給 | 交通費支給

##### 02 少人数制

大人数が苦手な生徒とも信頼関係を築けるよう少人数で行っています

##### 03 対面でのサポート

大学生や社会人エンジニアが対面で関係性を築き個々の生徒に伴走します

今年度の活動

新大阪・堺教室に加えて、3拠点目が東京の五反田にオープンしました！

拠点の開講にあたり、大学生メンターや社会人エンジニアも新たに仲間が増え、高校生の自走を支援しています。



これまで上限800円としていた高校生の交通費の支給額を上限1,000円に改定

年間100名以上生徒を受け入れる中で、運営上小さくない負担ではありますが、高校生の現状やニーズに合わせ決断しました。

これまで交通費のみの支給としていた大学生ボランティアを有給インターンに変更

支援の質の担保はもちろん、大学生自身のお金の心配も少なくし、高校生へ責任をもって関わられるようにすること、今後の拠点拡大に伴う採用を鑑み、変更しています。



高校生のキャリア支援の一環として、企業見学にも注力

大阪府堺市が本社所在のゲーム会社「株式会社ユークス」様 ゲーム制作の現場の見学や、ゲームプログラマーの方のお話を伺いました。

世界有数の鉱業企業「BHP 日本支社」様 訪問では、日本法人社長 ガントス有希さんや母子家庭で育った方、非正規社員からIT担当の正社員になった方の話などをお伺いしました。

また、Tech Runwayを「Google」渋谷オフィスで実施させていただくなど、様々な企業様のご協力をいただきました。学校の先生と親以外の職業の大人との接点の少ない高校生にとって、自身の進路の選択肢が広がる機会となりました。



これからの課題

これまで、大学生メンターの準備や振り返りと、運営業務の仕組み化を通じて、安定して質の高い関わりを行ってまいりましたが、一方、修了生の接点や関わりについては課題があります。また、各教室で定員を超える応募があり受け入れを一部断らざるを得ない状況になっています。2023年度開設予定のよどがわベースとも連携し、定員の都合でTech Runwayへ参加できない高校生も含めて、一人ひとりに対して最適な機会を届けられるようにしていきたいです。



<社会的インパクト評価>

大阪公立大学 山野研究室の協力のもと、社会的インパクト評価に取り組みました（※詳しくはP.13）。単なる集計に留まらず、統計分析を行うことで、学術的・客観的に、プログラムがどうであったか、改善すべき点はどこか、評価検討を行っています。



参加する生徒の属性のデータ (2022年度)



※ひとり親、生活困窮については、生徒の自己申告のため、実際の数値より少ない値となっています



大阪公立大学 山野研究室による分析結果

Q. プログラム参加前後に変化は見られたか

**心理面** 「自己肯定感」「問題解決力」「学習意欲」  
アンケート結果に対して対応のあるt検定を行った結果、プログラミング前後で心理面3項目に対して有意な差は得られなかった(自己肯定感  $t(26)=-.885, p=.384$ ; 問題解決力  $t(26)=-1.345, p=.190$ ; 学習意欲  $t(26)=-1.046, p=.305$ ).

(n=27)	自己肯定感	問題解決力	学習意欲
参加前 平均値	3.019	3.712	3.037
標準偏差	0.747	0.548	0.779
参加後 平均値	3.096	3.891	3.163
標準偏差	0.721	0.768	0.819

**行動面** 家庭学習での時間

アンケート結果に対して対応のあるt検定を行った結果、プログラミング前後で有意な差は得られなかった( $t(26)=.941, p=.355$ ).

(n=27)	家庭学習	家庭プログラミング
参加前 平均値	1.410	0.440
標準偏差	1.118	0.751
参加後 平均値	1.260	1.370
標準偏差	1.130	1.006

家庭での週のプログラミング学習時間



<生徒の声>

何気ない相談に乗ってもらえたり、分からない所を教えてくださいと親身に対応してくださいました。こんなにも人を信用したのは初めてかもしれません。どうか、この活動を続けていってください。お願いします。



私がいろんなところに毎回つまずいていてもメンターが優しく「一緒にやってみようか!」と言ってくれて苦手だったプログラミングも好きになった。



メンターや生徒、エンジニアの皆さんとコミュニケーションが取れたこと、自分の意見や考えを発表できる機会があったことがよかったです。自分のことを話せるようになりました。



Tech RunwayのおかげでITエンジニアになるという夢ができました。メンターの方々には普段相談できないようなことを聞いてもらったり、自分のことで気づきを得られました。



<REPORT>  
あの頃の修了生はいま

Tech Runway 1期の卒業生であり、いまは大阪府内の専門学校で高度システムエンジニアリングについて学ぶ月岡涼風(つきおかすずかぜ)さんにお話を伺いました。



▶Tech Runwayの最終発表の様子

星のカービィが好きなので、BGMのサイトを作って発表しました。「自分の好きなものを探求する」という授業では、どのゲームのコントローラーが使いやすいかについて、古本市場に調べに行き発表したりしました。

02 教室修了時の発表会では、お母さんが感動されていた様子が印象的でした。

小さい頃から運動が苦手で「IT関係って身体使わなくてよさそう」という動機で応募しました。中高ともに家から近く、電車に乗ることもほぼ無かったので教室に通うこと自体が大きな一歩でした。学校では昼休みも机に突っ伏して寝たりしていたので、最初は教室でも友達を作るのが難しかったです。メンターの方に「挨拶をしたり、周りに分からないところを聞いてみたりするといよいよ」と教えてもらい、友達が出来ていきました。

01 CLACKに通っていた時はどんな高校生でしたか?

05 学校生活はどうですか?

昨晩も友達と徹夜でコーディング。そいつが「このプログラムわかる?」って話しかけてきて、教えたことで仲良くなったんです。毎日学校とかで残ったり、実際に僕が問題作って解かせてみたりして、2人で特訓して。高校時代にCLACKで学んで自信があったことが、専門学校生活で良いスタートを切るきっかけになったと思います。現在2社内定が出ていて、卒業後もエンジニアとして働く予定です。

04 入学してからも、アプリ開発の授業で自分からグループリーダーになったと聞きましたよ!

勢いで手をあげました(笑)リーダーシップがある友人に人のまとめ方を聞いたり、教授を捕まえてアドバイスをもらったりしましたね。

03 CLACKに入ってから何が一番変わったと思いますか?

# Step3 実践する

## ▶ Tech Runway +



### 事業概要

Tech Runway+は、Tech Runway修了生のうちの希望者を対象とした継続的にプログラミングを学習するためのプログラムです。エンジニアや情報系の学校への進学を希望する高校生が多く参加しています。

Tech Runwayと異なり、自分の力で学習を継続する主体性を大切にしており、高校生自身で決めた目標や学習内容に対し、実際に社会で活躍するエンジニアが高校生のサポートを行います。目標は、ITパスポートなどの資格取得や、webサイトやアプリの制作など様々。3か月の開講期間、毎週土曜に対面で開催される教室は、主に自宅学習で生じた質問を解消する場となっています。

また、IT関連の進路を希望する高校生が、自分の未来についてより具体的に考えるきっかけや情報提供の機会として、エンジニアが自身の仕事や就職のきっかけなどについて語る「ライトニングトーク」や、自分が普段扱う技術をその場で実演しながら紹介する「ギーク祭」を行っています。

### 今年度の活動

✔ ついに東京でもTech Runway+を開講できました！

東京拠点はまだ1タームの実施ですが、5名の希望者が参加しています。

✔ Tech Runway+に通う高校生が実社会のなかで、学びやキャリアに対する考え方を深めることを目的とするインターンシップの企画に注力

#### 株式会社夢峰様

データ解析を行ったうえで必要な施策を提案する短期インターンシップを実施しました。

#### 株式会社Mountain Gorilla様

Webサービス「カカナイ」を導入する企業向けにカスタマイズするという高い技術力が必要とされる研修を実施しました。Tech Runway+スタッフのサポートのもと無事に課題を終えた高校生2名が、2023年4月より、Mountain Gorillaさんのオフィスに出社し、インターンシップを行います。

### 参加生徒の声



色々なことを話せる環境だったので、過ごしやすかったです。自分の行動を振り返って、改善していくということが少しはできるようになったと思います。また、Tech Runwayからの経験も含みますが、「発表」に対してある程度の慣れが生まれてきて、余裕を持って楽しく話せるようになったと思います。人前で話すことは緊張しますが、その状況を楽しめる自分が育っているような気がしました。



昨年から一年半ほどお世話になりました。CLACKに出会ったことは私の人生の中でも素敵な出会いだったと思います。本当にありがとうございました。メンターの方全員が答えを教えてくれるのではなく、答えの導き方を教えてくださったのが自分の学びになったと思います。大学生になるので、ボランティアをする側になりたいです。

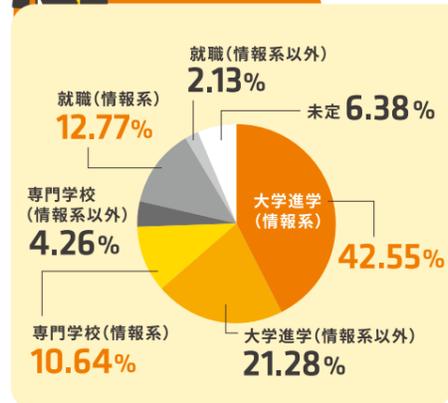
### 参加者

大阪(1ターム) **67**名 東京(1ターム) **5**名

### 継続参加者のうち最も長い方の期間

**1**年半 (2021年10月～2023年5月)

### 卒業後の希望進路



## ▶ Be Pro



### 事業概要

Be Proは、専門性の高いITスキルを学ぶことで、キャリアの選択肢を広げることを目的とした高校生対象のプログラムです。特定のスキルを専門に扱う企業と協力し、学習難易度の高いスキルでも高校生にとって学習しやすいよう、CLACKでプログラム設計を行います。専門性の獲得により、IT人材としてのキャリアの可能性を広げると同時に、より実務に近い学びのなかで、自身の将来の解像度を高めるプログラムです。

### 今年度の活動

✔ 株式会社セールスフォース・ジャパンのご協力のもと、Salesforce管理者としてのスキル習得を基軸にしたプログラムを実施

事前にCRMについて学ぶ研修を行った後、5日間かけてSalesforceの機能や設定の説明と自分のパソコン上での実装を繰り返し、スキルの獲得を目指しました。事後研修では、得たスキルとキャリアや、自分の進路について深めるキャリア学習も実施しました。希望者は、実際にSalesforceを導入する企業でのインターンシップを予定しています。

## ▶ チリツモ



### 事業概要

チリツモは不登校の中学生・高校生を対象にしたプログラミング専門のオンライン個別指導です。Tech Runwayを実施するなかで、不登校経験や発達障害があり教室に通うことは困難だが、プログラミングを学習したいという高校生のニーズに直面してきました。また、コロナ禍の影響もあり、不登校の子どもは年々増加しており、不登校の子どもたちの個別ケースやニーズにあった教育サービスが求められています。

### 今年度(初年度)の活動

✔ 不登校の子どもが成功体験を通して、学習を継続できるようなサービス設計に最も注力

不登校支援の経験が豊富な社会福祉士と連携し、子ども・保護者と体調面や進路の悩み等、学習に限らない定期的なヒアリングを行っています。結果、1年間の受講により、引きこもり状態から就労移行支援の利用や資格試験の受験に挑戦できる方もいました。他にも、それぞれの子どもの特徴に最適化した授業やコミュニケーションを行える講師を育成するための、独自の研修体制や最適なサービス提供の仕組みの整備、実践に近い形式でモノづくりの成功体験を獲得できるオリジナル教材の開発も行いました。

✔ NPOや社会福祉協議会、サポートステーション等関係機関と連携し、アプローチ

チリツモを必要とする子どもと繋がるために連携先を増やすこと、サービス利用後の出口支援の充実化を図ります。

### 参加者

参加者数	完走者数	生徒の属性
<b>13</b> 名	<b>12</b> 名	性別 女性8名、男性5名
<b>完走率 92%</b>		学校 普通科1名、商業7名、高専5名(男性)
		学年 1年生6名、2年生6名、3年生1名(3月時点)
		進路 就職5名、大学進学5名、専門学校2名、その他1名

### 参加生徒の声

印象的だったことは社員の皆さんの経歴の話です。私は高校卒業後、就職しようと考えているのですが、具体的な進路はまだ決まっておらず、焦っていました。ですが、社員の皆さんの話を聞いていくうちに「焦らなくても大丈夫だ。道は沢山あるんだ。」と感じるようになりました。本当に参考になりました。5日間、とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました！



### 受講者数 11名

### 連携機関 3社

そこで、自宅で自分のペースで学べるオンライン個別指導サービス「チリツモ」を今年度から開始しました。これまでの支援で蓄積してきたノウハウを活用し、不登校や発達障害等個別の特性・経験に最適な学習カリキュラムと授業を提供しています。さらに、授業では実際にWEBエンジニアが業務で使用するプログラミング言語を学習することで、将来の選択肢を考えるきっかけになったり、自分の学びと社会との繋がりを実感できます。

### 保護者の声

中学校から辛さを感じて不登校になり、人と関わるのがしんどい時期もあったようです。プログラミングは自分で学習することが難しいですが、講師の方が本人の意思を尊重してくれたお陰で学習を進めることができました。体調が優れず欠席が続くこともありましたが、あきらめずに振替してくれたのがよかったです。授業以外にもカウンセリングで定期的につながっていて、スタッフと信頼関係ができていたので、任せることができたのだと思います。チリツモの方は家族がしんどい時も変わらずサポートしてくれたので、安心感がありました。



## <仕組みを全国に広げる>

### Tech Runway 地方

対象：地方の中高生

#### 事業概要

大阪・東京など都市圏における経済的困難を抱える高校生に対する支援は、形になりつつあります。一方で、地方では都市部と比較して学びの選択肢が少ない現状があります。地方の中高生に対し、その地域の特徴にあった形で、プログラミング学習支援とキャリア支援の形をつくることを目指したプログラム開発や、地域の自治体との協働を進めています。また、地域の課題として若者の人口流出も叫ばれるなか、都会の学校に進学し、都会で就職したとしても、CLACKのプログラムに参加した「10年後」にまた地元に戻ってきたいような支援モデルのカタチを模索しています。

#### 今年度の活動

- ✓ 支援モデルの検討のため  
地域への訪問・ヒアリングを重点的に行いました

相対的貧困の割合やひとり親家庭の割合、不登校生徒数等を調査しながら、支援が必要とされる地域を検討したのち、6地域を訪問し、各地域の自治体、企業、子ども支援団体と、現状のヒアリングや情報提供、議論を重ねました。各都市を訪れるなかで、子どもの交通手段の都合や、CLACKとしての講師確保の点でも、対面での実施は難しく、対面とオンラインのハイブリッドなどプログラムの実施方法における課題も見えてきました。

#### 来年度の活動

- ✓ 実際に自治体と協力し、  
地方版の支援プログラムの開始を目指します

高校生に無料で機会を提供していくために、事業継続の必要経費の問題は非常に重要です。そのため、自治体の予算計上の可否や、地域企業の協賛、財団からの支援なども模索しながら、実現可能な地域、あるいはプログラム運営の方法を模索しています。



### インパクト評価

#### 事業概要

子どもや若者の自立支援や貧困問題の解決に向けて、これまでCLACKではTech Runwayプログラムの参加前後でアンケートを取り、評価と改善に努めてきました。より客観的で信頼性の高い評価を行い、中長期的な視点や社会的な影響を考慮して事業や団体運営を改善するために、スクールソーシャルワークのプログラム評価を研究する大阪公立大学の山野則子研究室と協力して、社会的インパクトを測定する取り組みを開始しました。

#### 今年度の活動

- ✓ 評価項目の策定からデータ収集に尽力しました

山野則子教授と研究員の方々にTech Runway堺教室に足を運んでいただいたうえで、2022年度の調査範囲の選定を山野研究室と一緒に行いました。研究員の方とともにTech Runwayの参加前後、18歳時点、20歳時点でのアンケートを1から作成し、分析や活用を考慮して、測定項目を自己肯定感・学習意欲・問題解決能力の3点に絞ることを決定しました。



研究室の方で3項目を測定するためのアンケートを作成し、実際にTech Runway (新大阪9期、堺4期) にて、回答を収集しました。現在、アンケート結果をよりよく活用するための分析手法を研究室と議論しています。2023年度以降も継続し、Tech Runway以外のプログラムも含めた効果測定を含めて、さらに一緒に研究していくための予算確保が課題となっています。

## <制度に組み込む>

### 政策提言

#### 事業概要

困難を抱える高校生に対する民間の支援が、地域を問わず日本全国で実施されるようになってほしいと考えています。そのためには、CLACKだけでなく支援者を広げていくことが重要です。各省庁や政治家の方への政策提言や制度化を見据えて、まずは一つの自治体と組んでいい事例をつくることを目指します。現在は、就労支援の前段階「プレ就労支援」として困難を抱える高校生に対してのIT教育、キャリア教育、高校生インターンシップ等への予算化に向けて取り組んでいます。高校生、支援者、国にとって、持続可能な良い制度設計を提案するため、様々な団体や自治体と連携すること、社会的インパクト評価による成果の可視化も重点的に取り組みます。

#### 今年度の活動

- ✓ 関係省庁や自治体との関係構築と  
現状を伝えることに注力しました

放課後居場所カフェを2020年から開催する東淀工業高校の学校運営協議員に理事長の平井が就任し、年に3回程度、校長と協議委員の方々と共に学校の運営方針について議論しています。また、大阪府の福祉部や教育庁(教育委員会)の方々、厚生労働省、文部科学省、経済産業省の官僚の方々による教室の見学や、国会議員の方への活動のご報告や、府議会議員向けの勉強会なども開きました。

- ✓ 『駒崎弘樹の政策起業道場』にて  
具体的手法を学びました

数々の政策提言を執行してきた認定NPO法人フローレンスの『駒崎弘樹の政策起業道場』に理事長の平井が1期生として採択され、具体的手法を学びました。まずは関西を中心としたNPOの協働をより推進していくため、100団体以上のNPOが集まる新公益連盟 西日本支部の代表団体に就任しました。



## 2023年の取り組み

### 01 中高生のデジタル居場所「よどがわベース」開始します!

2023年秋頃、大阪市で十三で「よどがわベース」のオープンを予定しています。中高生の機会格差、体験格差を解消することを目的に、中高生が好きなときに出入りでき、プログラミングやデザイン、eスポーツなど中高生の“やりたい”をサポートするスタッフが常駐する場所を作ろうとしています。日本財団の助成を活用し、3DプリンタやゲーミングPC、グラフィックや映像、楽曲の制作ソフトなどの設備を整えます。必要に応じて、Tech Runwayや他の支援機関に繋げ、地域の中高校生支援の一つのハブとなることを目指すと同時に、これまで社会構造上、支援を届けられなかった子どもにも居場所を届けられるのではと楽しみにしています。

### 02 Tech Runway 地方へ拡大!

大阪、東京といった大都市、政令指定都市だけでなく、人口20万人~50万人の中核市や20万人以下の自治体でも、プログラミング学習支援とキャリア支援を広げていきたいと考えています。大都市圏と地方では子どもを取り巻く状況や抱える課題も異なるため、各地域に根ざした団体や企業、自治体と連携し、各地域の子どもに適した支援をつくっていきたいと考えています。2022年度は高知や徳島、静岡や栃木など地方都市の視察やヒアリングを行いました。2023年度は、地方向けTech Runwayをパイロット版としてスタートさせるべく、対面だけでなくオンラインの支援も活用する形式で、複数の自治体との打ち合わせを進めています。

### 03 政策提言も行っていきます!

CLACKは、日本全国100カ所に自走支援の形が広がることを目標としています。ただ、困難を抱える高校生の選択肢を広げる質の高い支援を届けるために、地域の実態に合わせることも重要です。私達は、国や自治体の予算化を進め、各地で自走支援を行う団体を増やすことを目指します。内閣府で掲げる「人への投資」では、5年で1兆円の予算が付き、DX人材の育成や就労支援におけるデジタルスキル習得支援の重点化、ひとり親家庭支援を掲げています。その中で、高校生へ早期支援を行うことは国としても効果的であると考えます。まずは官僚や政治家の方に教室に見学に来ていただくことを起点に、政策提言に取り組んでいきます。

# 関西から全国へ。 社会課題の担い手の覚悟。

きっかけは  
ヒライの猛アタック!?

——初めに、白井さんがCLACKの理事になっていただくことになった経緯を教えてください。

平井 100団体以上のNPOが加盟する業界団体「新公益連盟」(以下、新公連)に入るかどうか迷っていた時、新公連の代表をつとめている白井さんに話を聞きに行ったのがきっかけです。加盟してからも、西日本支部でCLACKの歓迎会を開いてくださり、温かく迎え入れていただきました。非常に大きな業界団体の代表というところで遠い存在のように感じていたのですが、歓迎会でお話を聞くうちに「これだけ実績がある方にも悩みがあるんだな」と身近に感じました。



## 若手×ベテランの 確かな化学反応

——白井さんがそこまでの熱意を持って白井さんにCLACKに関わって頂きたかったのは何故なのでしょう?

平井 これまでの子ども支援の実績はもちろん、今よりもっと不登校支援に対して逆風が吹いている時代から、社会的な民間事業を行政のお金で回るような仕組みを創ってこられたところですね。フローレンスさんやカタリバさんの政策提言とも連携されていて、いまCLACKが目指す方向性とびつたりだと思いました。

# SHIRAI × HIRAI

2022年9月よりCLACKの理事に就任された、新公益連盟 代表理事の白井 智子さん。日本初の公設民営型フリースクールなど、行政を巻き込んだ多くの教育の仕組みのパイオニアとして知られています。

白井さんと共にどんどん活動を拡大しているCLACKは、この先どう進んでいくのでしょうか?

理事長平井と理事白井さん。  
お名前だけでなく眼差しもどこか似ているお二人にお話を聞きました。

## 理事長 平井大輝



「1人1人の子どもにも適した教育を受けられるようにするための大人の責任」が強い問題意識としてあるので、判断は間違ってたかと思えます。ありがたいことにお声がけくださった方は沢山いらっしゃる中で、CLACKは半年かけて私が関わるための準備をしてくれて、その上で改めて声をかけてくれたのはとても光栄でした。

## HIRAI DAIKI 平井大輝



## SHIRAI TOMOKO 白井智子



## ChatGPT時代の 子どもたちとCLACK

——白井さんのお力も最近どんどん活動を広げているCLACK。現在どんな未来を目指しているのでしょうか?

白井 私が理事になったというプレスリリースをわざわざ出してくれたじゃない。あれは初めての経験でしたが「若手とベテランがくっつくことはすごいインパクトをもたらすはずだ!」と反響が大きくて。正直自分で振り返ると、今まで自分がやってきたことに対して「もっとこうできたはず」ばかり。そのもがきの中で得た、自分の中ではいつしか当たり前になっていた学びが、若手にとってこんなに役立つのか!と新鮮でした。

平井 2週間に1回時間をもらって議論を行っているのですが、白井さんの視点からアドバイスをいただくことで、今までの5倍、いや10倍のスピードで物事が進んでいくこともあります。

平井 生成系AIの発達によって、指示待ちで出来る仕事が減るなかで、AIを使えるようになる力は必要不可欠です。これまで、効果的な情報検索のための講座をCLACKの教室で行っていたのですが、今期からChatGPTといったAIの活用についても学んでいきます。これからは、やはりCLACKの支援の仕組みを全国に広げていきたいです。自団体だけでなく拡大も試みていきたいと思います。自団体だけでなく拡大も試みていきたいと思います。自団体だけでなく拡大も試みていきたいと思います。

白井 地方であればあるほど、そういう居場所を増やしていくことの需要が高いと思います。選択肢がとにかく少ないからね。居場所と思える場所の数と自己効力の高さには大きな相関性があるというデータもあります。

——「居場所の有無」「非認知能力」といった目に見えない部分にこそ格差が出やすいということですね。「格差は存在するものだから、仕方がない」という考え方もいらっしゃるかと思うのですが、そういう方にお二人ならどう答えたいですか?

## 理事 白井智子



白井 そうおっしゃる方って、実際に格差構造の当事者で、チャンスを得られなかった経験がある方が多いんじゃないかなって感じを持っています。これは現場にいたときから悩ましかった。発達障がいがある子を差別する子は発達障がいの当事者であることが多い。諦めが無いと自分を支えられないのかもしれない。排除される人々がさらに人を排除していくという構図を止めるためにも、働きかけ続けなければならぬと思います。

平井 経済的な格差と、体験や機会の格差は別物だと思っています。経済的な格差は資本主義社会である以上、一定は生じてしまいますね。だからといって、体験や機会の格差を正当化すべきでは無いと思うので、なるべくなくしていくべきだと僕は考えています。

## 政策提言でゲームの ルールを変えていく

——最後に、これからCLACKが力を入れていく政策提言について、白井さんがパイオニアとして何を行ってきたのかお聞きしたいです。

白井 不登校の子どもたちがいるということを知って明記した法律「教育機会確保法」の制定に関わりました。1999年に初めて私が

フリースクールを設立したとき、日本の法律は全員の子どもが学校に通っている前提で作られていたんです。法律的には、不登校の子はいないことになってた。だからフリースクールにしても、「国は認めていない!人さらいみたいだ!」みたいな扱いを受けました(笑) それでも2016年に不登校人口が12万人を超えた時、やっと総理とか文科大臣がフリースクールを訪問しはじめました。当時公設民営型のフリースクールは、私が設立したものを含めて2つしかなかったのですが、それらをモデルにして法律が出来たと言われています。法律はメッセージです。不登校の子どもと親御さんも「自分たちの存在を認めてもらった」ということで、法律をきっかけに本当に元気になるました。それでもまだその法律には予算がついておらず、理念法にとどまっています。まだ浸透していない。実質的な法律にするため、いま新公連で政策提言をしています。

平井 CLACKではこれから、全国の困難を抱える高校生に対し、適切なIT教育とキャリア教育を届けるための政策提言を行っていきます。これから社会の変化により転職が盛んに行われる時代になり、より困難な環境の子どものたちが苦手とする「自分の頭で考える」ことが必要な時代となります。人への投資等の文脈で大きな予算がつくようになった今「フレ就労支援」という形で、困難な環境の子どもたちの仕事に関する障壁を未然に防ぎ、減らしていきたいです。

# <SPECIAL CONTENTS>



# <TEAM>

生まれ育った環境に関係なく、  
子どもが希望とワクワクを持てる社会

に向けて、活動する仲間を紹介します！



♥ 最近のマイブーム

🍴 最後の晩餐で食べたいもの

★ 2022年度の個人的ニュース

—— **理事** CLACKのビジョン達成に向け、向かう先を定め舵を切る経営陣です。



**平井大輝**  
理事  
大阪出身 CLACK活動歴 5年0ヶ月  
♥ 坂道グループ  
🍴 寿司  
★ フリマにいても、あまりときめかなくなったことに歳を感じました



**中川公貴**  
事務局長  
京都出身 CLACK活動歴 2年10ヶ月  
♥ ラジオを聞くこと  
🍴 にんにくいっぱいの油そば  
★ サウナブームでサウナが好きになりました！



**白井智子**  
理事  
ピラティスとズンバ  
🍴 生ハムとオリーブとチーズとワイン  
★ コロナ明け海外に出たいと言い続けていたら、いま1回ペースで海外出張が入っています

—— **社員** CLACKの活動をフルタイムで支えています。様々な経歴・バックグラウンドのメンバーで構成されています。



**井上泰孝**  
事業統括部長  
大阪出身 CLACK活動歴 2年3ヶ月  
♥ 猫を愛でること  
🍴 エビフライ  
★ たるみきった体の改善に向けて筋トレを始めて、今でも継続しています！



**森川悟**  
教材部長  
東京出身 CLACK活動歴 1年6ヶ月  
♥ 早朝トレラン  
🍴 おにぎりと味噌汁  
★ 人生初キャンプしました！



**及川陽太**  
関西エリアマネージャー  
兵庫出身 CLACK活動歴 3年2ヶ月  
♥ タイ映画を観ること  
🍴 きつねうどん  
★ 結婚する友人に夫婦茶碗を送ることにしました。



**前田勝紀**  
東京エリアマネージャー  
福井出身 CLACK活動歴 2年5ヶ月  
♥ フライパン1つでパスタを作る  
🍴 みそ汁  
★ シェアハウスに住み始めました！

—— **インターン** 中高生の学びと成長を最前線でサポートしています。



**高橋美優**  
堺拠点メンターマネージャー  
大阪出身 CLACK活動歴 2年3ヶ月  
♥ 10年前くらいのアニメを漁る  
🍴 鍋  
★ 就職先が決まりました！卒業まで残り一年ゆっくり過ごしたい



**田中祐介**  
五反田拠点メンターマネージャー  
千葉出身 CLACK活動歴 1年10か月  
♥ カメラ・旅行に行くこと  
🍴 高級なお寿司  
★ カメラが新しい趣味になりました！



**橋川洋人**  
広報PRメンバー  
神奈川出身 CLACK活動歴 1年3ヶ月  
♥ キャンプ  
🍴 揚げ出し豆腐  
★ 就職先が決まったので、残りの学生生活頑張ります！



**川上翔平**  
チリツモメンバー  
鹿児島出身 CLACK活動歴 2年  
♥ 野球観戦  
🍴 麺類  
★ 実験



**為清亜乃**  
新大阪拠点メンターマネージャー  
広島出身 CLACK活動歴 1年10ヶ月  
♥ コジコジとプロ野球  
🍴 みそしるかあんかけラーメン  
★ ジムに通ってみたいお年ごろです！

—— **業務委託** 大学生や社会人がそれぞれの専門性を活かして関わっています。



**高橋克直**  
Tech Runway+京橋マネージャー  
兵庫出身 CLACK活動歴 9カ月  
♥ 飼犬に噛まれる  
🍴 A5牛  
★ 2022年からCLACK関わらせてもらってます。仕事より楽しくて助かりますー



**中川 隼介**  
Tech Runway+京橋マネージャー  
福岡出身 CLACK活動歴 1年8ヶ月  
♥ らっきょう  
🍴 美味しいお米  
★ 引っ越して仕事部屋ができました



**前田美樹**  
事務局スタッフ  
大阪出身 CLACK活動歴 1年7ヶ月  
♥ 毎朝お灸をする  
🍴 たいめいけんのオムライス  
★ 座椅子とプリンター買ったからQOLが上がりました



**坂本紫織**  
広報PRメンバー  
福岡出身 CLACK活動歴 6ヶ月  
♥ 米粉でパンを焼く  
🍴 煮物と納豆とご飯とお味噌汁  
★ キックボクシングはじまりました！



**山邊鈴**  
広報PRメンバー  
長崎出身 CLACK活動歴 1年  
♥ 野菜をむしやむしや食べる  
🍴 カスタードを乗せたパン  
★ 高円寺の銭湯で働くために休学しています！



**西村征輝**  
チリツモ: カウンセリング担当  
大阪出身 CLACK活動歴 8ヶ月  
♥ トランプマジックの練習  
🍴 高級寿司  
★ 大阪と東京の2拠点生活を始めました！

—— **社会人エンジニア**

実際に企業で活躍するエンジニアが、中高生の学びを支えています。

—— **メンター**

CLACKのプログラムに関わる中高生に寄り添い支援を行うチームです。

## 大学生メンターのとある一日



あのちゃんです！

大学入学後すぐから、CLACKに所属して3年。今では高校生を支援するだけでなく、メンターや社会人エンジニアのサポートや教室運営のあれこれも行う「あのちゃん」にお話を伺いました。

CLACKの活動がある日の1日の流れ

7:00 起床

8:00 移動

12:00 ランチ

16:30 移動

17:15

メンター集合/グリーフィング

17:30 メンターの目標設定

21:30 帰宅

8:50 講義開始

教育に関心があり、人間科学部に所属しています。教職課程も取得しながら、ゼミでは講義とは違う学びで大変です。空いている時間には、CLACKのMTGに参加したり、運営に必要な作業をしたりもしています。

17:45 高校生の集合時間

この時間も、高校生の自走にとって大事な時間です。雑談や相談、教室全体の雰囲気づくりをしています。

18:00 プログラム開始

私は拠点マネージャーとして、高校生の支援だけでなく、メンターの様子も見るようにしています。一時期、メンターの人数がぎりぎりになってしまって、高校生の支援も担当を数名も持ちながら、マネージャー業務も行ってたときは大変でした...!

20:30 プログラム終了・振り返り

CLACK独自のシートを活用して、高校生の状況や自分たちの関わり方について振り返りを行います。メンター内で個人振り返りの内容を共有し、深掘りやフィードバックを行うことで、主観に偏った支援にならないように心がけています。

お疲れ様でした！

Q ■ CLACKに惹かれた理由は？

子どもに対して、勉強以外で支援をやっているところに惹かれました！組織がスピード感を持って変わる面白さや、フィードバックを受けられる環境、教育だけでなくいろんなことに熱があり、一緒に頑張れる仲間と出会ったことでここまで続けられた気がします。

Q ■ 3年続けて感じるCLACKの変化は？

システム化・効率化されたことでほとんど大学生で現場運営ができるようになってきたことです！運営の方法などではなく高校生への関わり方やプログラムの改善に時間を費やせているように思います。

Q ■ 拠点マネージャーになって変わったことは？

高校生やメンターとの1on1を行ったり、マニュアルを作ったり、メンターが担当する高校生の割り振りを行ったり、運営に関わるいろんな業務を行っています。準備期間もしっかり忙しいです(笑)

Q ■ CLACKや高校生に関わって初めて知ったことはありますか？

支援者ってこんなに物事を考えているということに驚きました。また、自分がいいと思った関わり方が必ずしも正解ではないことは、大きな学びの一つです。

Q ■ あのちゃんのこれからのについて教えてください！

そろそろ就職活動が迫っています。自分が興味関心があって、ワクワクすることは教育や子どもにまつわることなのですが、一度、教育以外の分野で就職してみようかなとか、休学はどうかとか悩んでいます。でも大学に在る間は教育のことをやりたいと決めているので、CLACKも関わられる期間は精一杯取り組みます！



# <2022年度活動計算書>

科目	金額	
<b>I. 経常収益</b>		
1. 受取会費	0	0
2. 受取寄附金	42,056,354	42,056,354
3. 受取助成金	10,960,000	10,960,000
4. 事業収益	4,862,340	4,862,340
5. その他収益		
受取利息	150	
雑収入	1,507,098	1,507,248
経常収益計		59,385,942
<b>II. 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬・給料手当	17,623,650	
法定福利費	2,337,679	
人件費計	19,961,329	
(2) その他経費		
旅費交通費	4,139,936	
外注費	14,265,801	
採用教育費	566,165	
広告宣伝費	1,540,234	
通信費	625,333	
消耗品費	578,498	
教材費	3,992,158	
PCリユース費	3,211,010	
賃借料	298,306	
地代家賃	1,284,891	
支払手数料	132,750	
減価償却費	438,900	
その他経費計	31,073,982	
事業費計		51,035,311
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬・給料手当	1,549,600	
法定福利費	223,642	
福利厚生費	58,300	
人件費計	1,831,542	
(2) その他経費		
旅費交通費	360,370	
採用教育費	143,860	
通信費	219,525	
消耗品費	66,533	
地代家賃	321,222	
租税公課	8,466	
保険料	17,000	
諸会費	256,800	
支払手数料	164,591	
支払報酬料	1,364,000	
支払利息	23,505	
雑費	16,536	
その他経費計	2,962,408	
管理費計		4,793,950
経常費用計		55,829,261
当期経常増減額		3,556,681
<b>III. 経常外収益</b>		
経常外収益計		0
<b>IV. 経常外費用</b>		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		3,556,681
法人税・住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		3,486,681
前期繰越正味財産		2,089,251
次期繰越正味財産		5,575,932

今年度も多くの法人、個人の方からのご寄付をいただきました。大口での法人からの寄付が増加し、金額としては昨年度の934万円から4倍を超える金額となりました。

日本財団様、ベネッセ子ども基金様、阪急阪神 未来のゆめ・まち基金様などからの助成金が含まれています。

今年度より開始した不登校の中高生向けプログラミング家庭教師事業「チリツモ」、困難を抱える高校生に対してのプログラム「Tech Runway Camp」の一部を受託事業として実施した金額が含まれます。

2022年度は事業拡大に伴い、職員を新規で2名雇用したことや非常勤職員のフルタイム勤務への転換をしたことにより、昨年度より1,100万円増加しています。

対面で行う支援の際に、支援するスタッフと高校生に交通費を支給しています。本年度は3ヶ月の継続的な支援を5拠点で開催できたことにより、400万円近くの交通費を支出しています。

プログラム運営にあたっては、ITエンジニアをはじめ、兼業の方に積極的に業務委託契約で活躍してもらっています。また、各教室の大学生メンターの活動支援金も含まれています。

チリツモの生徒募集費用や各活動を対外的に発信するための費用も含まれています。

各拠点でプログラミング学習に必要な通信費や、各高校へのチラシ配布送料費用も含まれています。

高校生がプログラミング学習に活用するN予備校の費用や株式会社SAP様と連携して実施したERP simのライセンス費用を計上しています。また対象の高校生に合わせた教材開発も一部で行っています。

生徒に寄贈するPCは、企業の使用済みPCをリユースして活用しています。データ消去費用や、セットアップに関わる費用をPCリユース費用として計上しています。

大阪・東京の2都市での支援に当たり、職員の移動費、また地方への支援の展開に向けた視察等の費用を計上しています。

職員の合宿、外部研修への参加費用が含まれています。支援を日本全国に拡大していくためには、職員のスキル向上は必須となると考えています。

税理士、弁護士への委託費用です。

# 子どもがワクワクできる社会をともにつくる

## <CLACKへのご支援について>

CLACKの活動は、ご寄付やご寄贈をはじめとする、みなさまの様々なご支援に支えられています。私たちと共に、子どもたちが生まれ育った環境に関わらず希望を持ち、ワクワクできる社会を創っていきませんか？

### 個人の皆さまへ

#### ▶ 継続サポーター

毎月定額の寄付で応援する

月1,000円からの継続的なご支援となります。

#### ▶ 単発サポーター

好きな金額の寄付で応援する

ご自由な金額・回数でご支援いただけます。

ご寄付はこちら



※CLACKでは、コングラント株式会社が提供する寄付管理サービス「コングラント」を使用しております。決済方法は、クレジットカード、銀行振込からお選びいただけます。詳しくは上記QRコードよりご覧ください。  
※認定NPO法人の資格を取得しているCLACKへの寄付は、税控除の対象となります。地方税も寄附金控除の対象となりますが、控除割合は各自治体によって異なります。詳細については、各自治体にお問い合わせください。

### <個人寄付者の声>



戸山 慎太郎 様(株式会社 Regrit Partners)

私は講師と寄付者の両面からCLACKに関わっており、人生を変えたいという強い気持ちがある子どもたちに対して全力でチャンスを提供するというCLACKの姿勢に共感しています。子どもたちは将来への展望が開けるだけでなく、教室自体がサードプレイスとしての機能も兼ねています。また親御さんへのご負担も無いうにPC準備や教室への交通費もCLACKが負担する等、「無料プログラミング教室」以上のものがCLACKでは提供されます。子どもたちの未来のため、今後活動を更に広げられることを期待しています。



松山 亜紀 様(キンドリルジャパン株式会社 CSR(社会貢献)担当部長)

初めてCLACKと出会ったのは、団体を設立されて1年少しくらい前の頃でしたが、その時に「生まれ育った環境に関係なく、子どもが希望とワクワクを持てる社会」という理念を語ってくださった平井代表の真っ直ぐな眼差しが忘れられません。先日は現場を見学させていただきましたが、子どもたちに本気で向き合い寄り添うスタッフやボランティアの皆さんの姿が印象的でした。CLACKさんを通して、より多くの子ども達が可能性を感じ、未来を描けるよう、心から願っています。

### 法人の皆さまへ

#### ▶ 使用済みPCの寄贈によるご支援

CLACKでは、企業の使用済みPCを困難な状態にある高校生へプログラミング教育とともに届けるプロジェクト「Pass the Baton (パスザバトン)」を実施しています。

ご寄贈いただいたパソコンは、パートナーシップを締結している株式会社パシフィックネット様の元で、データ消去を実施したのち、経済的事情でパソコンの購入が難しく、プログラミングの継続学習を希望する子どもたちに無料で提供します。



株式会社パシフィックネット 代表取締役社長 上田 満弘 様

#### <法人サポーターの声>

CLACKさんとは、当社からのPC寄贈をきっかけに交流が始まり、早くも4年目になります。2021年2月から始まった本取組みは、社会的認知も高まっており、支援の輪が広がっていることをとても嬉しく思っています。今後は、PC寄贈のみならず、IT教育や就職支援など、支援の幅を広げていきたいと考えています。本取組みにより、より多くの高校生が生まれ育った環境に関係なく、将来の選択肢を広げ、未来を大きく切り開いていけるよう支援させていただくとともに、寄贈元企業のSDGs推進にも貢献していきたいと考えています。

### Pass the Baton

企業から譲り受けた使用済みPCを、完全無料のプログラミング教育とともに困難な状況にある高校生に届けることで、“自走力”の向上を支援するプロジェクト「Pass the Baton」。これまでに多くの企業様にご支援いただきました。企業からのPCのご寄贈に関しましては、特設ページをご覧ください。



#### ▶ ご寄付によるご支援

CLACKへのご寄付は、損金算入が可能です。詳しくは内閣府ホームページをご覧ください。

CLACK寄付 検索

### <Pass the Batonの仕組み>



# <OUR PARTNER>

パートナー企業のみなさま

日頃よりご支援をいただいているみなさまに厚く御礼申し上げます。子どもたちへ完全無料でプログラミング学習支援・キャリア教育を届けるにあたって、個人の寄付者様に加えて、企業の皆さまにもご支援をいただいております。一部となりますがご紹介させていただきます。

今後も皆さまとともに、高校生にプログラミングの力で未来への希望とワクワクを届けていきたいと思っております。



## <賛同者の声>

「NPOを支援するってこんなに簡単に出来るんだ！」

これが企業としてCLACKを支援させて頂くなかで常に感じていることです。

BHPジャパン代表取締役社長  
ガントス有希 様



古くなったパソコンを廃棄しなければならぬとき、Pass the Batonを知ったことが、支援のきっかけとなりました。データ消去など煩雑な手続きはすべて受け持ってくれる。なら捨てるより寄付したほうがいいんじゃない？その一言で決まりましたね。むしろやらない理由がなかったです。

さらに、CLACKのキャリア教育の一環として、高校生をBHP社に招待するイベントを行いました。高校生も喜んでくださいましたし、キャリアを振り返って語る中で、自分自身を見つめなおせた社員も多かったように思います。これらの日本支社によるソーシャルバリューを生み出す取り組みが全世界のBHP社の中で評価され、その表彰を頂きました。この功績が、今回CLACKへの寄付とつながりました。

まずは課題が認知されることが、その後のアクションの範囲を広げられるので、社内広報でも積極的に子どもの貧困による格差の問題、ジェンダーを超えた多様性の問題について取り上げています。その影響もあり、社会貢献に対して社員はとても意欲的です。「一緒にずっとパートナーシップを構築していく地域社会への貢献をすること」をコンセプトに日本支社は日本の皆様、地域社会とお付き合いしてきました。ソーシャル・バリュー、つまり我々がお世話になっている地域社会への貢献が企業の成功には不可欠だと思います。



# <ORGANIZATION>

団体情報

## メディア掲載 (2022年度)

- 01 2022年04月05日 読売新聞
- 02 2022年11月17日 大阪日日新聞
- 03 2022年12月09日 教育新聞
- 04 2022年12月16日 毎日新聞
- 05 2023年01月27日 阪急急線おでかけ情報TOKK

## 受賞歴

- 2022年 2021年度シチズン・オブ・ザ・イヤー
- 2023年 第16回「未来を強くする子育てプロジェクト」スミセイ未来賞
- 2023年 第2回 SDGsジャパンスカシップ岩佐賞【教育の部】



## <HISTORY>

沿革

- 2018.06 任意団体CLACK立ち上げ
- 2018.10 Tech Runway新大阪1期生開始
- 2019.03 NPO法人CLACKの法人格を取得
- 2020.04 コロナ禍のオンライン支援テックGIFT実施
- 2020.10 放課後居場所カフェ スタート
- 2021.08 Tech Runway Camp スタート
- 2021.10 Tech Runway堺教室 開校
- 2022.04 Tech Runwayの生徒数が100名を突破
- 2022.08 Tech Runway五反田教室 開校
- 2023.01 Tech Runwayの生徒数が200名を突破
- 2023.02 認定NPO法人化

## <MEMBER ORGANIZATIONS>

加盟団体

- Sustainable Innovation lab
- シェアリングエコノミー協会
- 新公益連盟
- 公益資本主義推進協議会
- さかいSDGs推進プラットフォーム



大阪市淀川区西中島 3-8-15  
EPO 新大阪ビルディング 1001

contact@clack.ne.jp  
https://clack.ne.jp  
@npo\_clack  
www.facebook.com/npo.clack

- 理事長 平井大輝
- 理事 白井智子 / 中川公貴
- 監事 持井大樹
- 顧問弁護士 三村雅一
- 顧問税理士 烏野税理士事務所
- デザイン syusyu design (ホームページデザインほか)



CLACK

認定NPO法人CLACK  
2022年度 年次報告書